



TOYAMA
Prefectural
University

富山県立大学ニュース

平成25年5月発行
富山県立大学学生委員会

NO.99

平成25年度入学式



石塚学長 式辞



CONTENTS

- 学長就任挨拶
- 退任挨拶
- News Digest
- 新任教員紹介
- INFORMATION など



新入生代表誓詞 工学部 二永 貴さん
大学院 望月 基史さん

学長就任のご挨拶

富山県立大学学長 石塚 勝



4月から富山県立大学学長を務めることになりました石塚 勝です。

本学は、人間性豊かな創造力を備えた技術者を育成するとともに、学術と産業との有機的連携を進め、もって地域及び社会の発展に貢献することを目的として、平成2年に設立されました。平成6年3月に初めての卒業生を送り出してから、平成25年3月でちょうど20回目の卒業生を送り出したところです。

この間、富山県の支援のもと本学組織も充実してきました。平成18年度には、学部2学科・大学院3専攻体制から、学部2学科を3学科へ改編するとともに、新たに生物工学科を設置し、学部4学科・大学院4専攻体制へと移行しました。さらに、平成21年度には、環境工学科を新設し、この4月から大学院環境工学専攻を開設しました。これによりそれぞれの学科に接続した大学院体制、すなわち、学部5学科（機械システム工学科・知能デザイン工学科・情報システム工学科・生物工学科・環境工学科）・大学院5専攻（機械システム工学専攻・知能デザイン工学専攻・情報システム工学専攻・生物工学専攻・環境工学専攻）体制が実現しました。

研究面では、国内屈指の研究プロジェクトである浅野教授のERATO研究をはじめ、多くの受託研究・共同研究等を行うとともに、科学技術研究費等の外部資金研究費を活用した最先端の研究を積極的に推進しています。今後さらに、県工業技術センターものづくり研究開発センター内における県大サテライトラボのさらなる活用や若手研究者の育成などに努めたいと考えています。

教育面では、自然環境と調和した持続可能な社会、安全・安心で豊かな社会を実現することを教育目標の一つとして、専門教育だけでなく、初年次教育、

教養教育、キャリア教育にも力を注いでいます。

具体的には、本学の教育の特色である少人数で行き届いた教育を実践しています。1年次の対話型の教養ゼミに始まり、4年次の卒業研究に至るまで、すべての学年で少人数の学生と教員とが触れ合う場を用意しています。またキャリア教育では、インターンシップ、企業見学、企業からの講師の招聘などを通して、学生のキャリア意識の涵養に務めています。幸いにも「就職に強い大学」として高い評価をいただいておりますが、引き続き、全力を傾注したいと考えています。

しかしながら近年、少子化や大学のユバーサル化の進行に伴い、大学をめぐる状況は大きく変化しています。大学間競争を勝ち抜くことが求められています。さらに産業界からは、課題解決型人材の輩出を強く求められるようになってきました。

これらに対応するためには、私は、教育・研究の充実をさらに図って行くための改革が必要であり、その改革も、スピード感をもって、かつ失敗を恐れないチャレンジ精神をもって進める必要があると考えています。特に、学生参加型授業、共同学習を取り入れた授業、課題解決型学習など、学生の能動的な学習を取り込んだ授業を進め、産業界等の要望に応えていくことが必要であり、そのことが大学間競争を勝ち抜くことになると信じています。

これらを実現するうえで、学生の教育にあたる教員の資質向上を目指す取り組みも必要となります。また、学生諸君にも、授業への積極的な参加だけでなく、サークル活動や語学学習のような正課外の活動での自己研鑽も強く求められます。本学のような小規模でフレンドリーな大学であれば可能だと思います。誰もが明るく元気な大学を目指して頑張ります。

本学の設立時に設定された「人間性豊かな創造力を備えた技術者を育成し、また学術と産業との有機的連携を進め、もって地域及び社会の発展に貢献する」という目的をあらためて見直しますと、決して色褪せず、今後のあらたな20年をも見据えたものであると思います。

本学は、今後とも、実践力のある学生を育成するとともに、優れて世界的な研究を展開しつつ、あわせて産学連携研究を進め、教育と研究を通じた、さらなる地域及び社会への貢献を目指してまいります。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



退任のご挨拶

富山県立大学前学長 前澤 邦彦

3月をもって学長を退職しました。2年間と短い期間でしたが、教員の皆さん、事務局の皆さん、後援会、研究協力会の方々をはじめたくさんの方に支えられ、なんとか務めることができたのではないかと思います。ただただ感謝です。

技術短大と県立大学の教員時代を含めると37年余にわたり、このキャンパスで過ごさせていただきました。長い間「物理学」を教えてきましたが、学生が物理を理解するためには論理的にものを考える習慣ができていることが必要であり、また文章を読む力が必要であることを感じてきました。そこで、少人数ゼミでは、読むこと、読解力を養うことに腐心しました。工学を学ぶ（工学に限りませんが）ためには基本的な知力とでもいうものが要求されるのではないのでしょうか。富山県立大学の教員の皆さんが、単なる専門教育ではなく、小規模の大学であることの利点を生かし、このような総合力の育成に努めていることは、本学のすぐれた特徴であると思います。小規模であるが故に、学生一人ひとりに目が届くという利点があります。

学長在任中は、社会（受験生）から選ばれる大学、大きな伸び代を保證できる教育力の高い大学をめざしてきたつもりです。そのためには、教員が活発な討論を通して、大学の進む方向についての認識を共有し、その結果として高いモチベーションをもって日々の活動を展開することが大切です。「言うは易し」ですが、そのような方向をめざしてきたつもりです。

さて、これからの富山県立大学ですが、すぐれた教育と研究成果を上げ、しっかりした存在感を示していくことと確信しています。なぜならば、開学以来県立大学は、教育への取り組みについて、大学をあげて取り組んできた経緯（伝統）があります。教職員の並々ならぬ努力の積み重ねの上に今日があると思います。そのことを正しく評価し、自信を持って進んでいっていただきたいと思っております。

退職にあたり



環境工学専攻の開設にあたり

工学研究科環境工学専攻 主任教授 高橋 剛一郎

平成21年4月に環境工学科が開設され、本年3月に最初の卒業生を送り出すことができました。そしてこの4月には大学院環境工学専攻ができました。本学の他学科・専攻と同様、ようやく環境工学部門も大学院までの体制が整いました。

現在の環境問題は、対象物質の多様化、規模の拡大、各種問題間の関係の複雑化などが特徴です。この問題の解決のためには全体を見通す力と高度な技術が必要で、また国際的な対応も求められます。環境工学専攻では、このような複雑な問題を解決し安全な循環型社会をつくるための技術・政策を提案できる人材を養成します。

本専攻は「水循環工学部門」、「資源循環工学・環境政策学部門」、「環境デザイン工学部門」の三部門から構成されています。それぞれ、水資源の持続的、効率的な利用に関する技術、資源の効率的な循環利用に関する技術とこれを実現するための環境政策、マネジメント、安心・安全で持続可能な社会基盤の整備に関する技術などの課題の研究・教育を行なっています。その取り組みでは工学的、生態学的、社会学的など様々な手法を用います。

このように幅広い課題、手法で環境問題を対象とするユニークな専攻で、地域や地球規模の環境問題解決に対処できる技術者・研究者に向かって羽ばたいていきましょう。



中国・大連での企業実務研修

2月23日から15日間、富山県と大連YKKジッパー社の共催で、中国・大連での企業実務研修が実施されました。県立大学生3名を含む県内の大学生7名が参加し、中国の企業7社で見学・実習し、ホームステイや日中大学生討論などを行いました。

【インターンシップに参加した学生の感想（機械システム工学科4年(当時) 今井 大さん）】

企業の話で印象に残っていることは、日本企業は高性能・高機能を売りにして高価ゆえに販売が苦戦しているが、伸びている企業では、価格を決めてその範囲でできる機能に絞る引き算の開発をしている事だ。消費者の需要の違いが明確にあり、企業はそれをつかみ戦略立てていく必要があると感じた。研修中はYKK寮で生活したので中国人スタッフとの交流も多かった。国同士の争いが多く報道されていたが、結局、関わるのは人と人であり、自分の目で相手を理解することが大切なのだと学んだ。

研修を通して海外で働くことのイメージを少しつかむことができた。また、同世代の中国の方々と比べると、自分の学生としての自覚の無さ、将来への意識の低さに気づいた。今回の研修で考えたことや感じたことを、これからの進路に生かしていきたいと思う。

平成24年度学位記授与式

3月25日(月)、アイザック小杉文化ホール・ラポールにおいて、平成24年度富山県立大学学位記授与式が行われました。式では、前澤邦彦学長が「『自分の殻にこもらず、広く自分の周りや社会の動きにも関心を持ち、外に向かって積極的に働きかけ、様々な新しいことに勇気を持って、果敢にチャレンジすること』、『常に、技術者としての視点を持つこと』の二つのことを心がけて欲しい。」と、式辞を述べました。また、石井隆一富山県知事が「夢を実現する気概と、社会の発展に貢献する高い志をもって、新しい国づくりのために活躍してください。」と、告辞を述べました。

式に併せ、各学科において成績優秀と認められた学生1名に、学長からベストチューデント賞が贈られました。受賞された方々は、次のとおりです。



工学部機械システム工学科	浦口陽矢
工学部知能デザイン工学科	吉田大樹
工学部情報システム工学科	打越大成
工学部生物工学科	佐々木理香
工学部環境工学科	本山亜友里



「環境マイスター」「エコ・チューデント」が誕生しました

本学では、持続可能な社会の実現に向け、環境への幅広い視野と倫理観を備えた技術者の育成を目指す「環境教育プログラム」を全学的に実施しています。その一環として、在学中の環境に関する科目履修や、諸活動の実績に応じてポイントを付与する「エコポイント制度」を4年前に導入しました。

この3月に、エコポイントを一定以上獲得した学生43名を、初めて「エコ・チューデント」として認定し、このうち環境工学科 本山亜友里さんと知能デザイン工学科 山田健人さんに「環境マイスター」の称号を贈りました。「環境マイスター」のお二人からは、「後輩たちには積極的に環境に関する活動に参加して、エコポイント制度を上手に活用してほしい。」とのメッセージをいただきました。

平成25年度入学式

4月8日(月)、アイザック小杉文化ホール・ラポールにおいて、平成25年度富山県立大学工学部と大学院工学研究科の入学式が行われ、328名の新しい学生を迎えました。石塚勝学長が、「皆さんには、学生生活の間に、自主性、積極性、さらに自在性を磨いてほしい。また、学業の場はもちろん、サークル活動をはじめとした正課外のさまざまな活動を通じて、積極的に友人や先輩、教職員と親しく関わっていただきたい。」と式辞を述べました。

また、寺林敏富山県副知事が「旺盛な好奇心をもって新たな課題に果敢にチャレンジし、かけがえのない学生生活を実り多いものとして下さい。日々、努力を重ねられ、大きく飛躍されますことを心から期待しております。」と知事の告辞を代読しました。工学部の二永貴さん、大学院の望月基史さんが新入生を代表して「高度な専門知識や技術を身につけ、大いなる夢と希望をもって、目標に果敢に挑戦することを誓います。」と大学生活に対する決意を述べました。



学生相談室がオープンしました！

これまで利用していた「カウンセリング室」が、より気軽に相談できるよう環境整備され「学生相談室」として生まれ変わりました。

部屋の場所は厚生棟2階から本部棟4階へ移転し、落ち着いた雰囲気相談スペースが特徴です。

また、臨床心理士などの資格を持った専門の相談員が2人から3人に増え、週3日体制から週5日体制になりました。

日頃の学生生活における悩みごとや誰かに聴いてもらいたいことがあるときは相談員が親身になって相談に乗り、様々なアドバイスを行います。

本学では今後も全学生が充実した学生生活を送れるよう、この学生相談室の整備にとどまらず、より一層の相談体制の強化に努めていくこととしております。



転出にあたり

東京都市大学環境学部

准教授 大西 暁生

4月より東京都市大学に赴任いたしました。富山県立大学には、平成22年10月に赴任して以来、皆様方には色々とお世話になり、心よりお礼申し上げます。おかげさまで、この2年余りの間、教育、研究、学内外の活動において、多くの経験を積ませて頂きました。

さて、県立大学は実践に重きを置いた教育と地域の発展に寄与するための研究を進めており、私自身このような環境において多くのことを学ばせて頂きました。特に、ステップアップセミナーによる民間企業を中心とした若手技術者との交流は、社会における科学技術の重要さと、実践力のある技術者の養成がとりわけ工学部において急務であることを痛感させられました。今後、このような貴重な経験を糧に、教育、研究活動に邁進していきたいと考えております。

県立大学の更なるご発展と皆様方のご健勝を心より祈念しております。

●新任教員紹介●



生物工学科 教授 西田 洋巳

4月1日に応用生物情報学講座の教授に着任いたしました。大学の講義「生物情報学」および「ゲノム工学」、大学院の講義「バイオインフォマティクス」を担当いたします。「ゲノム」という専門用語は今や一般的に通用する言葉となりました。塩基配列などの生物情報は急増し、それらの管理や解析にはコンピュータが不可欠です。生物情報学（バイオインフォマティクス）は、これらの情報をいかにして活用するかという重要な課題に取り組んでいます。生物情報学の教育・研究に積極的に関わってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



情報システム工学科 准教授 神原 一紀

この4月より、情報システム工学科・情報メディア工学講座に准教授として着任しました。これまで、2004年に博士（工学、神戸大学）を取得し、その後2013年3月まで、立命館大学情報理工学部にて、物流システムの最適化や自律分散型のスマートグリッドの運用方法、組合せ最適化アルゴリズムに関する研究に取り組んで参りました。今後は最適化の観点から、富山県を目指すスマート・コミュニティの在り方に関する実証的な研究に取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



環境工学科 准教授 島 俊郎

この4月から環境工学科 水循環工学講座の准教授として着任いたしました。大学を卒業後、ゼネコンの技術研究所、大学の受託研究員、高等工業専門学校を経験し、縁あって富山県で教育・研究に取り組むことができるようになりました。これまで、主に微生物機能を建設工学分野に活用する新しい技術について研究・開発を進めてきました。富山県における災害に強い街づくりや、地域特性を活かした新しい環境保全技術の実用化を目指した取り組みを進めたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



機械システム工学科 講師 宮島 敏郎

平成25年4月1日より、工学部機械システム工学科エコデザイン工学講座の講師として着任いたしました。福井大学で学位を取得後、同大学産学官連携研究員、新潟大学助手・助教、福井大学助教を経て現在に至ります。その間、材料のトライボロジー（摩擦・摩耗・潤滑）評価ならびに、それに関わる表面強度評価や表面微細加工の研究に従事して参りました。富山県出身者であることも生かし、これまでの研究内容をベースに、地域に根ざした材料表面に関わるトライボロジーの研究・教育を進めていく所存です。よろしくようお願い申し上げます。

本学学生の受賞について

本学学生が次のとおり各学会賞等を受賞しました。(学年は受賞時)

受賞者	学科等	学会賞名
今井 悠貴	博士前期課程知能デザイン工学専攻2年	日本音響学会北陸支部「優秀学生賞」
吉崎 大輔	博士前期課程知能デザイン工学専攻2年	電子情報通信学会北陸支部「優秀論文発表賞」
早崎 涉	博士前期課程知能デザイン工学専攻2年	電子情報通信学会北陸支部「優秀論文発表賞」
内藤 千裕	博士前期課程知能デザイン工学専攻2年	電子情報通信学会北陸支部「優秀論文発表賞」

INFORMATION

博士の学位授与報告

3月25日(月)の学位記授与式において、博士(工学)の学位を授与された方の氏名と論文題目は次のとおりです。

【課程博士】

(知能デザイン工学専攻)

- 森川 大輔 音像定位における静的および動的音響特徴に関する研究
白 杉 Study on Hydrothermal Synthesis of Plate-like Niobate Powders for Oriented Lead-free Piezoceramics (非鉛系配向圧電セラミックス用板状ニオブ酸塩粉末の水熱合成に関する研究)
吉川 武尚 マイクロレンズアレイの超精密切削加工に関する研究
(生物工学専攻)
磯谷 健太郎 Studies on the efficient biocatalysis for producing optically pure alcohols including (*R*)-(-)-quinuclidinol ((*R*)-(-)-キノクリジノールを始めとする各種光学活性アルコールの効率的バイオ生産に関する研究)

【論文博士】

(生物工学専攻)

- 内橋 伸介 Structure-function analysis and gene expression of mammalian UDP-glucuronosyltransferase (UDP-グルクロン酸転移酵素の構造と機能及び遺伝子発現に関する研究)
安田 佳織 Prediction of the Metabolism of Drugs and Food Factors by Drug-Metabolizing Enzymes in Humans (ヒト由来薬物代謝酵素を用いた食品成分・医薬品の代謝予測)

富山県立大学市町村連携公開講座

本学では、地域に密着した大学としてその教育研究の成果を広く社会に開放し、地域社会の向上に資するとともに生涯教育の一助となることを目的として、県内市町村と連携した「市町村連携公開講座」を毎年開催しております。今年度の「市町村連携公開講座」は下記のとおり開催予定ですのでご案内いたします。

- 氷見市**
- 開催日：平成25年5月25日(土) 14:40～16:00
 - 会場：氷見市ふれあいスポーツセンター
 - テーマ：子どもと教育

- 朝日町**
- 開催日：平成25年6月22日(土) 13:30～15:50
 - 会場：朝日町役場
 - テーマ：子どもと教育

※詳細は下記までお問合せください。

富山県立大学地域連携センター 〒939-0398 射水市黒河5180
TEL：0766-56-7500(内線234) FAX：0766-56-6182
E-mail：shogaigakushu@pu-toyama.ac.jp

☆これまでの開催状況は富山県立大学ホームページにてご確認いただけます。

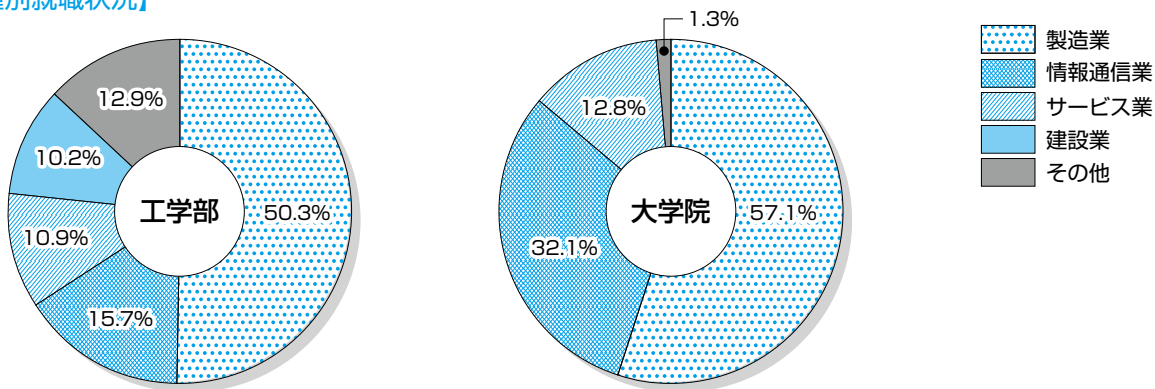
<http://www.pu-toyama.ac.jp/local/shougai/2013/03/15/229/>

平成24年度卒業・修了生進路状況

	卒業・修了者数	就職者数	進学		
			うち県内就職	進学者数	うち本学大学院
工 学 部	225 (32)	147 (22)	63 (13)	72 (9)	69 (8)
機械システム工学科	45 (1)	29 (1)	13 (0)	15 (0)	15 (0)
知能デザイン工学科	52 (3)	36 (2)	17 (2)	16 (1)	16 (1)
情報システム工学科	51 (6)	32 (4)	8 (1)	18 (2)	17 (2)
生物工学科	39 (17)	21 (11)	13 (6)	15 (5)	15 (5)
環境工学科	36 (5)	27 (4)	11 (4)	8 (1)	6 (0)
機械システム工学科(旧)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
大学院・博士前期課程	80 (6)	78 (5)	23 (3)	1 (1)	1 (1)
機械システム工学専攻	16 (1)	15 (0)	5 (0)	1 (1)	1 (1)
知能デザイン工学専攻	22 (1)	22 (1)	5 (1)	0 (0)	0 (0)
情報システム工学専攻	26 (0)	26 (0)	7 (0)	0 (0)	0 (0)
生物工学専攻	16 (4)	15 (4)	6 (2)	0 (0)	0 (0)

() は女子内数

【業種別就職状況】



人事消息

異動区分	職	氏 名	異動区分	職	氏 名
就 任 (25.4.1)	学長 工学部長・工学研究科長 学生部長	石 塚 勝 松 本 三千人 中 村 清 実	退 職 (25.3.31)	学長 工学部教授 工学部教授 工学部講師 工学部講師	前 澤 邦彦 春 山 義 中 野 慎 舟 渡 裕 大 西 一 生
新規採用 (25.4.1)	工学部教授 工学部准教授 工学部准教授 工学部講師	西 田 洋 巳 榊 原 一 紀 島 宮 俊 郎 宮 島 敏 郎	転 出 (25.3.31)	事務局次長・総務課長 教務課長 総務課管理係副主幹 総務課経理管財係副主幹 教務課主任 教務課主任 総務課主事 教務課主事 教務課主事	吉 田 秀和 島 崎 哲賢 松 本 泰 宮 直 弘 五 小 幸 松 沢 睦 竹 島 憲 充
昇 任 (25.4.1)	工学部教授 工学部准教授	渡 辺 幸 一 岩 井 学			
転 入 (25.4.1)	事務局次長・総務課長 教務課長 総務課主幹 総務課管理係副主幹 総務課経理管財係副主幹 教務課主任 総務課主事 教務課主事 教務課主事 教務課主事	川 嶋 芳 明 海 下 雅 人 林 智 香 子 林 修 二 北 林 徹 草 子 久美 桶 谷 奈都 角 藤 都 巳 宮 腰 護 則 武 遥 香			

SCHEDULE 平成25年度

		大 学 院	工 学 部
1(土) 開学記念日 1(土) ひまわりプロジェクト (1年次生全員による種まき) 29(土) サークルリーダー研修会	6月	13(木) 進路ガイダンス	22(土) オープンキャンパス
		25(火)、26(水)、27(木) 特別授業(補講)	24(月) 編入学試験
		1(月) 工学研究科入学者選抜	
		16(火)、17(水) 特別授業(補講)	20(土) エコツアー I
3(土) ダ・ヴィンチ祭	8月	1(木)～9(金) 授業又は前期試験	3(土) オープンキャンパス
		9(金) 前期授業終了	
		20(火)、21(水) 工学研究科入学者選抜	26(月)～9/13(金) 集中講義
	9月		

CAMPUS NOTE

サッカー部



サッカー部は毎週月曜日と木曜日の週2回、富山県立大学のグラウンドや大谷講堂、体育館で活動しています。サッカーを通して体力と技術の向上を目指し、時に厳しく、時に楽しく、日々の練習に励んでいます。

昨年度は、4月から8月には県内の社会人チームや高校のチームなどと練習試合を何試合か行い、9月には滋賀県へ遠征にも行きました。2泊3日で滋賀県での大会に参加し、他の都道府県の大学チームとも試合をすることができました。今年度からは久しぶりに富山県大学・高専サッカー連盟に登録し、県内の大学・高専のチームと試合をします。また、昨年度と同様に遠征にも行く予定です。

新年度になり、新たに新1年生が多く入部して部員が増えたので、サッカー部としての活動もより充実したものとなり、活気に満ち溢れています。部員同士の仲もよく、これからの成長がおおいに期待できるチームだと思っています。皆さん応援よろしくお祈りします。

編集後記

今回は、学生の皆さんに是非知ってほしい生き方の方程式についてお話しします。これまで、就職指導、研究室内そして講義の合間など適当な機会に紹介してきました。それは人生方程式といわれるもので、特別講義の際に、ある企業の社長さんがお話になったのがきっかけです。この人生方程式は、元JAL名誉会長の稲盛和夫氏が提唱されたものです。稲盛氏は工学部を卒業後、挫折を繰り返しながらも、京セラやKDDIを一から立ち上げ大企業にまで成長させ、最近ではJALを危機から救ったような方です。正確性に欠けているかもしれませんが、ご紹介したいと思います。この方程式は、

人生方程式＝考え方×熱意×能力

と書かれ、三つの要素(考え方、熱意、能力)の足し算ではなく、掛け算で値が求まります。「考え方」はプラス(+のポジティブとマイナス(-)のネガティブで符号が逆転しますので、もっとも大切です。普段使う言葉に自然と表れ、プラス言葉を普段使う人であればポジティブとなります。考え方がネガティブですと、どんなに熱意や能力が高くても、値はマイナス(-)となり良くありません。是非、ポジティブな考え方の人であってほしい、あるいは、もしそうでないとなればポジティブな考え方の人になってほしいと思います。

「熱意」は、情熱や意欲、向上心とも言い換えることができ、心の燃えやすさとして燃性で表されます。100点満点とすれば、天燃性100点、自燃性80点、可燃性60点、難燃性40点、不燃性20点以下といった具合になります。さらに、「能力」は、

能力＝才能×経験

と表されます。「才能」は生来の頭脳の能力であり、脳神経細胞の個数は誰もほとんど同じですから、誰も大差ありません。「経験」は学歴に近いもので、これまでの教育投資額に概ね比例しますが、これからの学生の皆さんの努力次第で無限に伸ばすことができます。

この人生方程式に照らし合わせたとき、学生の皆さんの現在はどうでしょうか。可燃性あるいは難燃性ではないでしょうか？可燃性の人、他の人に言われて燃え出す人、難燃性の人、他の人に何度も言われて初めて燃え出す人のことです。是非、自ら燃え出す自燃性の人になってほしいと思います。また、能力は学生の皆さんの努力次第でいかようにでも伸ばすことができます。貴重な学生生活を人生方程式の値がよりプラスで大きな値となるように、有意義に過ごしていただきたいと思ひます。

(学生部長 中村 清美)



この用紙は資源保護のため、インキは植物油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。